



仙台市水道局キャラクター

ウォーターくん

平成 30 年度事業計画

仙台市水道局

1. はじめに

- 仙台市水道局では、平成 22 年 3 月に策定した「仙台市水道事業基本計画（平成 22 年度～平成 31 年度）」（以下「基本計画」という。）及びその実施計画である「仙台市水道事業中期経営計画（平成 22 年度～平成 26 年度）」（以下「前期計画」という。）に基づき、各年度の事業に取り組んできました。このたび、前期計画期間の満了に当たり、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災という未曾有の災害に直面した経験と教訓、そして現状と新たな課題を踏まえつつ、基本理念の実現に向けた施策や事業を推進していくため、新たに後半 5 年間の「仙台市水道事業中期経営計画（平成 27～31 年度）」を策定し、事業に取り組んでいます。

このたび、平成 30 年度における事業計画がまとまりましたので、お知らせいたします。

図 仙台市水道事業の計画体系



2. 予算の概況

- 本市水道事業においては、これまでの経営の効率化に向けた取り組みにより、健全な財政状況を維持しておりますが、将来の人口減少や社会経済状況の変化等による水需要の減少に加え、経年化する老朽管の更新や浄水・配水施設の更新・耐震化等に要する費用は増加していく見通しであることから、引き続き事業運営の効率化やコスト縮減に努めながら、計画的な事業の推進を図っていく必要があります。
- 本年度においては、水道施設の適正な管理のためのアセットマネジメントの取り組み等を推進するとともに、管路・施設等の計画的な更新・耐震化や修繕・補修による延命化を図ってまいります。また、平成 32 年度以降の事業運営指針とする基本計画の策定に向けた調査等に着手するほか、水源保全活動や災害対応等の分野でのお客さまとの協働による事業の推進、若い世代への P R 強化等広報の充実などに取り組んでまいります。
- 今後も計画的かつ効率的な事業運営による経営基盤の強化やサービスの向上に努め、安全で良質な水道水を安定的に供給していくことを通じて、お客さまと地域社会に一層信頼される水道事業を目指してまいります。



3. 事業計画

区 分	単位	平成 30 年度 当初予算 (C)	平成 29 年度 補正後予算 (D)	増減(△減) (C) - (D)	比率(%) (C)/(D)
年間総配水量 (A)	m ³	119,530,000	119,657,000	△ 127,000	99.9
(仙台市配水量)	m ³	(115,384,000)	(115,511,000)	(△ 127,000)	(99.9)
(他市町分水量)	m ³	(4,146,000)	(4,146,000)	(0)	(100.0)
一日最大配水量	m ³	357,500	358,848	△ 1,348	99.6
一日平均配水量	m ³	327,480	327,830	△ 350	99.9
年間有収水量 (B)	m ³	113,197,000	113,314,000	△ 117,000	99.9
有収率 (B)/(A)	%	94.7	94.7	0.0	100.0
使用給水栓数	栓	453,000	450,000	3,000	100.7
職員数 (管理者除く)	人	410	408	2	100.5



4. 財政状況

(1) 収益的収支

- 水道水をつくり、ご家庭にお届けするための財源と経費です。

収入 275億9,000万円

お客さまからの水道料金 229億9,900万円	その他 45億 9,100万円
----------------------------	-----------------------

支出 266億1,300万円

人件費 36億 3,300万円	物件費など 79億9,700万円	受水費 60億100万円	減価償却費 79億2,000万円	純利益9億7,700万円
-----------------------	---------------------	-----------------	---------------------	--------------

支払利息10億6,200万円
 国などからの借入金の利息の返済

県などから浄水を
購入するための費用

水道施設などの資産価値
の目減り分を毎年の費用
として計上したもの

(2) 資本的収支

- 水道施設を建設・改良するために必要な財源と経費です。

収入 71億3,000万円

企業債 50億円	その他 21億 3,000万円	損益勘定留保資金 など 102億7,000万円
-------------	-----------------------	----------------------------

施設の建設・改良工事の
ために国などから借りる
お金

減価償却費などの現金支出
を伴わない費用などを充当

支出 174億円

建設改良費 113億7,000万円	企業債償還金 60億3,000万円
----------------------	----------------------

施設の建設・改良工事のための費用

国などからの借入金
の元金の返済

(3) 前年度との比較(収益的収支)

(単位 千円)

区 分 科 目	平成30年度 当初予算	平成29年度 補正後予算	増減(△減)	比率(%)
水道事業収益	27,590,285	28,025,092	△ 434,807	98.4
営業収益	24,804,728	24,808,273	△ 3,545	100.0
給水収益	23,572,374	23,598,247	△ 25,873	99.9
受託工事収益ほか	1,232,354	1,210,026	22,328	101.8
営業外収益	2,783,133	3,049,193	△ 266,060	91.3
水道加入金	989,682	1,232,081	△ 242,399	80.3
他会計補助金	351,487	361,357	△ 9,870	97.3
長期前受金戻入	1,376,982	1,344,158	32,824	102.4
不動産賃貸料ほか	64,982	111,597	△ 46,615	58.2
特別利益	2,424	167,626	△ 165,202	1.4
水道事業費用	26,613,453	26,844,345	△ 230,892	99.1
営業費用	25,472,990	24,543,619	929,371	103.8
人件費	3,633,331	3,496,437	136,894	103.9
物件費	7,339,615	7,122,402	217,213	103.0
受水費	6,001,175	6,020,991	△ 19,816	99.7
減価償却費ほか	8,498,869	7,903,789	595,080	107.5
営業外費用	1,065,945	1,159,678	△ 93,733	91.9
支払利息	1,062,232	1,156,892	△ 94,660	91.8
雑支出	3,713	2,786	927	133.3
特別損失	44,518	1,111,048	△ 1,066,530	4.0
予備費	30,000	30,000	0	100.0
当年度純損益(税抜き)	976,832	1,180,747	△ 203,915	82.7

(注) 消費税及び地方消費税抜きの額である。

(4) 前年度との比較(資本的収支)

(単位 千円)

区 分 科 目	平成 30 年度 当初予算額	平成 29 年度 補正後予算額	増減額(△減)	比 率 (%)
水道事業資本的収入	7,130,460	6,771,027	359,433	105.3
企 業 債	5,000,000	5,100,000	△ 100,000	98.0
固定資産売却代金	1	1,521	△ 1,520	0.1
出 資 金	772,708	705,850	66,858	109.5
国庫補助金	1,014,820	674,507	340,313	150.5
開発負担金	238,036	244,174	△ 6,138	97.5
負担金	99,619	30,043	69,576	331.6
その他資本的収入	5,276	14,932	△ 9,656	35.3
水道事業資本的支出	17,400,361	16,729,610	670,751	104.0
建設改良費	11,370,329	11,177,187	193,142	101.7
配水管整備事業費	6,029,990	5,964,105	65,885	101.1
施設整備事業費	4,810,780	4,985,157	△ 174,377	96.5
受託等工事費	529,559	227,925	301,634	232.3
企業債償還金	6,030,032	5,552,423	477,609	108.6
差 引	△10,269,901	△ 9,958,583	△ 311,318	103.1

(注) 消費税及び地方消費税込みの額である。

5. 主な実施事業

- 平成 30 年度の主な事業を「水道事業中期経営計画」における 2 つの『目指すべき将来像』に沿ってご紹介します。※【 】内の金額は平成 30 年度の当初予算額です。

1 強くて安心な水道

(1) 災害に強い施設・システムの整備

- 管路の耐震化【約 55 億 600 万円】

老朽化した送配水管路を耐震性に優れた管で更新し、管路の耐震性を向上させます。特に、災害拠点病院等重要施設への配水管路を優先的に耐震化します。



管路の更新工事

- 浄・配水施設の耐震化【約 18 億 5,100 万円】

荒巻配水所の更新や、茂庭浄水場配水池等の施設の耐震補強工事を行います。

- 災害時水運用機能の強化【約 2 億 2,200 万円】

災害時等の影響区域の縮小や早期復旧などを図るため、現在 131 ある配水ブロックの細分化と再編に係る施設整備や、配水幹線への仕切弁設置工事を行います。

(2) 災害対応力の強化

- 災害時給水栓の設置【約 3,100 万円】

大規模災害時に地域の皆様が自ら給水所を開設・利用できるよう、市立小中学校 17 校に災害時給水栓を設置します。

- 非常用自家発電設備の更新等【約 3 億 3,100 万円】

災害時などの長期停電に備え、主要な送配水施設の非常用自家発電設備の更新・新設を行い、運転時間を増強します。



災害時給水栓

(3) 水質管理の徹底

- 水質管理の充実・強化

水質 GLP (※) に基づいた水質検査の精度管理・教育研修を引き続き実施していきます。

※水質検査結果の精度と信頼性を確保するための認定基準。(公社) 日本水道協会が審査・認定・登録を行っており、平成 30 年度に更新審査を受ける予定です。

2 エコで持続可能な水道

(1) 環境に配慮した事業の推進

- 省エネルギー型機器への切り替え等【約 1 億 2,100 万円】※老朽更新費用を含む
将監送水ポンプ場の受変電設備更新や本庁舎の空調設備更新など、省エネルギー型機器への切り替えを推進します。
- 次世代自動車等の導入【約 200 万円】
公用車の更新に合わせ、次世代自動車等への切り替えを推進します。

(2) お客さま本位の事業の推進

- 体験・交流型広報の充実
水道事業に対するお客さまの理解を深め、信頼を確かなものとするため、水道フェアや各種ツアーなどを引き続き実施します。

(3) 経営マネジメントの推進

- アセットマネジメントの推進
水道施設の適切な維持管理や計画的な更新など、アセットマネジメントの取り組みを更に推進するため、水道施設の情報を管理するシステムを構築していきます。

